

った。なんだかすごいパワーを感じると思いませんか？

そんな 21 世紀の希望の酒鍋島白ラベル。これから何かを成し遂げようとする人にパワーを与えてくれるそんな白ラベルの歌。（*へたれ Vo の勝手な解釈で吉本先生の説明ではありません）

歌詞を頂いた時、ブワッてそんなイメージが流れ込んできたんですね。で、「この曲をアレンジして teizuisun に歌ってほしい」と Y 氏に頼まれて。イメージが、歴史的背景、自分の経験、色んな情報を元に湧いてくるんでそりゃあ歌いたいけど私、編曲なんてできません！ みたいな。

すでに谷口さんが歌われているし！ しかも演奏付き！「teizuisun ならなんか適当にできるだろ」みたいな感じで言われたんですが私はそもそもあまり音楽を聴かないので…さすがに無理です…。（しかもなんか勝手に私を何でもできる人みたいにしないでください…(笑)）で、アレンジを誰かに頼みたいと思って色々考えました。でも絶対、谷口さんの原曲を超えて、吉本先生の歌詞と歌詞から Vo が抱いたイメージの大きさや深さを受け止められる人はちょっといないだろ…と思ったんですが、ん？ 待てよ？ あんま曲の数聴いたことないけど分かるヤツいるじゃん。一人。絶対「いやぁ…やりたいけど無理だよ…」とか言いながら何気にこの私を歌う気にさせてくれるアイツが… 求めるクオリティ以上にやってくれるアイツが。ということで問答無用でお願いしたのが obra。

10 月くらいに話してレコーディングが 3 月。蔵開きが 3 月末だったのでどうしても間に合わせたいと。12 月にその鍋島を送って頂いて編曲陣に呑んでもらって。で、obra。やってくれましたね。しかも卒論だか学会だかに追われてバタバタしてるときに。寝る間を文字通り惜しんで。出来上がった曲聴いてこれは社長さんに出せる、と。やっぱ obra は良い。

普段あまり歌わないタイプの曲調だったんですが、憑依できましたね。へたれ Vo は曲に左右されるんで、憑依できる曲じゃないと歌えないんですよ。（普段は glove とか Celine とか歌ってます、私個人は）でもとっても良い曲です。

第 1 節はギターが 1 本「呑み手」を優しく孤独にさせてくれる。孤独になるから普段周りにあるもの、普通に起きる現象にありがたみをくれる。ポツリと「うれしかよ」って言いたくなる。第 1 節終わりかけでベースが入ってくるんですけど低音ってダイレクトに心に届く。いきなり「今この瞬間にありがとう」から「そういえば…」って回想に落としてくれる音で来てくれた。またこれが想いを巡らせるに連れて良い動きをしてて無駄がない！

第 2 節終わってドラムが入ってきて、徐々に躍動感が出て感傷的な気分から「明日も頑張ろう」的に前を向かせてくれる。まさにこれからへのドキドキ。ギターソロが走る鼓動を落ちつけてくれて第 3 節へ。

落ち着きながら扉を開けると「呑み手」を迎えるようにシンプルなギターが優しく包んでくれて、安定したベースがしっかりと進めてくれて、控えめだけど洒落たドラムが華を

添えてくれる。「あなたは自信をもって進んでいける」って押ししてくれるような曲。21世紀希望の酒にふさわしい。

呑み手がストレスレスに聴けるように、出来る限り曲に乗って歌ったつもりです。インスト版は泣けます。保証します。現に私も泣いたし、Y氏も泣いた。今ある自分を幸せにしてくれる酒、これからもパワーをくれる酒、鍋島にぴったりだと思える曲です。

で、それ歌った teizuisun さんて誰？ と言われるのですが、えっと…私です。自己紹介って難しいですね…えへへ。納得したことしかしない、納得した曲しか歌わない頭が高く、無茶振りでも周りを振り回す、わがままなヘタレ Vo です。声や容姿がコロコロ変わるのでよく「誰？」と言われてたりしてさびしい思いをしたりも。性格が明るいので「明娘」（はるにゃん）と呼ばれることが昔からちょこちょこ。「明」って「ハル」って読めるらしく、「娘」は「ニャン」と中国で発音するようで。

娘と呼ばれる年ではないですが、なぜかバンドでも「はるにゃん」と呼ばれてこっぴどかしい思いをしつつ、小さい子と仲良くなったときに気さくに呼んでもらえるのでまんざらでもなかったり。（ちなみに小さい子と犬にはモテます。ネコにもモテたいけど敵視されるんです）

ブログを見ても分かると思いますが、語り出すと止まりません。ノリは良いです。あなたの良いところは？ と聞かれたら「ノリと視力！」と答えるしかないほど。この鍋島のうたは、そんな人が歌ったのでした。「とってもかわいくて純真可憐な子が歌ってるんだ！」と思っていた方… 想像をブチ壊してすみません。

最後にこんな無色の独り言を最後まで読んでくれてありがとうございました。もしもこの曲が、鍋島が、あなたの時間に少しでも華を添えられたら光栄です。

旅行に行ける体調になったときは、谷口さんのピアノで歌ってみたい！

*Vo : アレンジした「鍋島のうた」のボーカルの teizuisun です。

*teizuisun : 九工大の卒業生、Google で低髄さんを検索してください、脳脊髄液減少症と闘っています。

「家族の心配事？ vs 本人の元気度」

夢酒人：諸岡昭男

近頃余暇の過ごし方に変化が出て来た様な気がする。

今月の 16 日で満 67 歳になったが、なにやら仕事や雑用も多いのに遊びの時間だけはな

んとかやりくりをして楽しんでいるのだが家族はあきれているのである。友人より誘いの電話が入るといそいそと行くのである。まるで幼い頃の遠足に行くような雰囲気である。家族は猛反対である。最近は無視されているが冷たい視線を浴びながら迎えの車を待つ。

その一つは車とカートのレースである。ドクター達と四輪耐久レースに、場所は熊本の天津町にあるホンダ二輪のテストコース。

3月に4時間耐久に前日より乗り込み2チーム参加、小生はBチームでドライバー4人。

いろいろとライセンスや規定があり、車検付車両のレースであり危険度は低いのですが、やはり廃車になる事故もありそれなりの恐怖はあるが結構楽しいのである。

Aチームは残り1時間あまりを残してリタイヤ、期待はBチームのエースドライバー？の小生、ラストの20分間を必死に運転し無事にチッカーを平均速度101~103kmで完走できた。ダントツのトップが残り時間10分弱を残しバックストレート後の立ち上がり複合コーナーでコースアウトしていた。ドライバーの心情を思いつつ周回を重ねる。お陰で15チーム参加の第3位に、表彰式でも主催者より元気なお爺ちゃんと紹介された。

もう一つはカートレースである。安心院にある本格的カートレース場での耐久レースに56歳と66歳合計122歳で参加。当日は大雨であったが、いそいそとレース場に、やはり好き者は雨が降ろうがである。

体重測定後予選に、スタート後2周にてパンツまで雨水が勝手に。（*タイヤはスリックで）

本戦では顔見知りの女性とバトル、たまにイン側からパスされ時の気持ちはお判り頂けると思いますが、男たる者が娘ごとき女に、「くそー」見ている抜き返してやるぞ、しかし現実には厳しいもので、体重差はどうにもならないのである。パスしてもコーナーではまた負けるのだ。それでも雨中のレースを第2位で完走（100分間）したのである。しかも1位と同一周回で3位以下は周回遅れ、我ながら良く頑張った。合計122歳はダントツ

ントツの年齢であるが、残念ながら年齢はハンディー対象にはならず。（（PCにてパナソニックパークで検索（6月12日）当日の画像がアップされています。3位の女性がバトル相手である））

誕生祝いを釜山でして頂いた。マイ猪口会の3人娘達より突然の連絡、毎月仕事で釜山に行っているのだが、先方に日程を調整して頂き何とか日程を合わせて釜山で落ち合う事に、互いに軽い食事をとった後にロッテホテルのロビーで21時に逢う事になる。誕生祝いを韓国で世の中変わった。本格的な「ホルモン」を探しに街にくりだす、見つけたホルモン屋で誕生日の乾杯、また乾杯、飲み物を変えてホルモンを食べながらまた乾杯である。

3人娘達よりカジノに行きたいのリクエスト、またホテルに戻り2階のカジノへ。4人にてルーレットに陣取り開始、30分もしない内に一人が追加チップを購入している。小生もチップを少し回すがそれも直ぐに底をつくのである。一人はそこそこに勝っていたのだが切り上げる。誕生祝いなのか博打ツアーなのか判らない楽しい釜山の一夜であった。

先日、恒例の「吟醸酒協会」のイベントに参加。（*大阪の天満橋 OMMビル）

一年振りの友人達と再会、今年は震災・原発の関係で少し参加蔵が少ない。それでも会場は盛り上がっていた。やはりこの時期の清酒は生き生きしている。はやく飲んで下さいよと酒がいうのである。グラスとミネラル水片手に今年は30歳ほどの吟醸酒を試飲した。吟醸酒だけはやはり途中からはしんどい、今年は福井県の吉田金右衛門蔵の「雲」が小生はすんなり飲めた。バランスが非常に良かった。九州の2蔵はそれなりにいい出来であっ

た。もっと九州の蔵元も参加して欲しいものである。

11月3日は偽ダッシュ村で「蕎麦打ち会」があるのだが、蕎麦を肴に呑む酒は最高である、呑み過ぎてまた顔面から転倒しないように注意して。しかし酒の魅力には弱いものである。

なにやら近況報告みたいですみません。

中国土産物屋軟禁事件

旅 人 ‘ぶら目玉’

10月半ばに、旅行会社のツアーに乗っかり4泊5日の旅程で中国に行ったのだが、中国流のお土産屋さんには、面を食らった。

場所は西安。外壁に‘ナントカ博物館’とか書かれている立派な建物だった。一見、日本なら県立博物館という感じだ。中に入ると、日本語が流ちょうな係員が付き添い、まず絵画の説明が始まる。それぞれの特徴を丁寧にしてくれる。次に、ヒスイとか水晶とか、高価な石でできた工芸品のコーナーに連れて行かれ、また説明を受けたのだが、絵画のところと違ったのは、「この石は日本円で80万円くらい」という話が加わりだしたこと。

「別に金の話なんかなくてもいいのに」と思いながら、さらに奥の部屋に導かれると、話の内容が一転。「この石はお買い得ですよ」なんて内容になり、完全に商売モードなのであった。スケジュール表を見ると、この時間は‘工芸品店’に行くことになっていた。

「あ、やられた」と思った。ここは‘ナントカ博物館’という名の土産物屋だったのだ。

「俺は石なんか買わないよ」と、集団から抜け出るため後ろを向いたら、別の係員が4、5人並んで壁を作って囲い込み「買うまで帰さないぞ」ってオーラがバンバン出ていた。

結局、30人近くのツアー客は、その後1時間近くその部屋に閉じ込められ、何人か買う客が現れて、ようやく解放されたのであった。軟禁だった。中国の商売、恐ろしかー。

キジムナーの悪戯

蓮 次郎

今帰仁のあたりだった。マングローブの林の中に隠れるようにコンロを据え火を熾した。MとOが泥の中に足を突っ込んで何やら探り出したものを持ってきて転がした。

汁椀ほどもある黒光りする大きな貝であった。彼らはオリオンをラッパ飲みしながら、私に分らない言葉で喋りながら次々に掘り出してゆく。炭が熾き、貝を網の上へのせる。口が開くと海水がこぼれ美味そうな香りがあたりを包む。Mが醤油を垂らす。醤油と体液とが融け合って沸騰したのを見た瞬間に一斉に箸が伸びてきて、あっという間に喉の奥に落ちていった。オリオンで追い打ちをかけようと空を仰ぐとマングローブのてっぺんに流木が見えた。足元には潮が迫っていた。旧正月の午後三時。大潮が迫っているのに気付いて慌てて撤収。泥に足を取られる隙に腰まで浸かる。恐怖感を覚えながら河口にたどり着いた我々は顔を見合わせて笑った。

後で知ったが天然記念物の蜆だったらしいのは今でも秘密だ。

お騒がせ二話

博多海鮮居酒屋はじめの一步：女将

涼しくなりましたね～～。っていうか朝晩少し寒いですよ。

やっと暑さから解放された～。良かった～～（`◇´）

だって暑いのが苦手だもんね。

若い時は夏のほうが好きだったんだけど…。

暑さ寒さに弱くなっちゃって、も～～、や～ね。

年はとりたくないですわね。ほほほほほ(@_@;)(@_@;)

その1 楽しめませうの巻

先日、いつもの通勤時に面白いものを見ました。

それは屋根の上での猫とカラスのケンカ！

私は車の運転中。

信号待ちしていたところ、ふと斜め前方の建物の屋根の上にならみ合う猫とカラス発見！！いきなりカラスが飛び上がり猫めがけてキック！！猫が繰り出す猫パンチ猫パンチ！！後ずさるカラス…にらむ猫。また再びカラスの攻撃！！またも猫パンチで応戦！！o(><);(><)o

わはははは(＾○＾)マジ面白い！！携帯で動画撮りたい！！しかし…信号変わって…早く行かなくちゃε=ヾ(;°ロ°)ノ

はてさて、あの猫とカラスは知り合いだったのか…原因は何だったのか…

何か知らんけど面白かった♪

その2 嫌がられますの巻

しかしこの前は、本当にわけがわからないことがありました。

「はじめの一步」での宴会で、しこたま飲んだお客様60代(?)男性が「ごっちそ～さ～～ん」と帰ったのですがしばらくして帰ってきて、「俺の泊まってるホテルどこ?!」(´曲´#)と、けっこうな剣幕……………

たまたま玄関前にいた息子が「ホテルの名前は何ですか?」って聞くと「たしかう～ん、何とか…あ～～よくわ・か・ら・ん・」(´曲´#)

(それじゃ～～わからんよ～～(ΘoΘ;))と息子は心でつぶやきながら「場所はどのへんですか?」「あっち……………!!(´曲´#)」(あっち?それだけでわかるわけないでしょ～～!!)「名前わからないんじゃ～～わかりませんね～～(ΘoΘ;)」と答えると「地元の人間のクセに何でわからんのじゃ!!!(´曲´#)!!!」と怒りだし、手に持つ

たぬれた傘を振って水を息子にかけ、どこかに立ち去ったらしい。ポーゼンと立ち尽くす息子…|||(-_-;)||||| (ちょっとムカつくけど…しょうがない…ヨッパライだし…)と片づけして帰り支度をして外に出てしばらく歩くと…あっ\(\◎o◎)/! なんとその男性がまだウロウロとさまよってらっしゃる〜〜~{+__+}

息子、その人に見つからないようにそ〜〜〜と帰ったそうです。いろんなお客様がいますが「俺の泊まってるホテル教えろ」って言って怒った人は初めて!

ある意味すごい! (´ε´) ぶー

笑えます。ハハハ……(-_-;)

御神酒

櫻木 大祐

10年前のお話なので、関係者の方々は聞きながしていただきたい。

私が、日本舞踊の大道具方としてアルバイトをしていた時のこと。朝、搬入口から黒い服装の小汚い連中がやってくる。その中の一人は、20代前半の私。

トラックからの荷おろしが終ると、すかさず建て込みが始まる。小一時間がすぎ、ある程度の段取りがつくと、棟梁から声がかかり、道具方は道具だまりへと集まる。そこには、クーラーボックスがあり、その中からおもむろに御神酒と呼ばれるビールがくばられる。

「ご安全に！」

酒を飲んでおいて「ご安全に！」もないだろうと思いはしたが、ペーペーの私には意見ができる理由もなく、「ああ、これが“しきたり”というヤツか…」と、ビールを飲みほした。しかし、中にはやはり酒好きというのは居るもので、気付で済めばいいものを調子にのって2、3本。鼻唄まじりの赤ら顔、呂律も回らず千鳥足。「おいおい、あいつ大丈夫かよ」と、目くばせが行きかう中、ついに舞台転換の時。不思議なもので、道具を飾っている最中は素面。

職人の不思議な習性に、ある種の感動すら覚えた若き日の酒の思い出でした。

ワンコイン試飲会

安行 啓二

先月、13・14日に「はらぐち会」の拠点、はらぐち酒店で「ワンコイン試飲会」があるとのことで13日、15時前に一番乗りした。これも、サンデー毎日の身のなせるワザと、中国旅行の前にたっぷりと日本酒を腹の中に入れて、という魂胆があった。

西の関 200日熟成特別純米、出羽桜純米吟醸雄町、旭日菊大地純米、鍋島ハーベストムーン、八海山絞り立て越後で候、綾花純米ひやおろし、寒北斗純米ひやおろし、繁耕特別純米ひやおろし、朝日山特別純米ひやおろしとそうそうたるメンバー?のそろい踏み。

んーん、見ただけで酔う！！じゃあ、ついでに呑んで酔うか！！

と、ということで、5種類に絞りちびりちびりと味わった。アテは持ち込んだフランスのブルーチーズ、二日前にどの酒に合うか楽しみで購入した。まあ、合わなくてもいいやと遊びどころで試飲会に挑んだ。このように、ゆっくりと遊べる機会は少ない、ありがたいことである。

絞った5種類、

- ①西の関は匂い味覚とも素晴らしくチーズに合う
- ②出羽桜は匂いはいいがチーズで味が消えた
- ③旭菊は酸味があり、ぬる爛がいいと思う、チーズはちょっと、でも呑める
- ④鍋島は以前に呑んで、鍋島にしては辛い酒と分かっていた。チーズとの相性を楽しみをしていたが十二分にチーズに対応していた。鍋島に惚れたことを別にしても
- ⑤八海山は匂い味覚とも甘く感じた、チーズと一番合った

まあ、呑兵衛はアテが何であろうと、楽しく呑めればいいのである、いらぬ講釈なんか捨てて。この様な機会は、自分に合った酒を探すのに絶好のチャンス。続けて欲しい、次回があれば、サラミを持ち込み楽しんでみたいと思う。

その時は、皆さんも酒とアテで遊んでみては！？

角打ち体操

安田 為一郎

こんばんは。皆さん。

角打ち体操の時間です。

今日も一日の疲れを癒す角打ちに寄りましょう。

皆さん。角打ち体操の準備は良いですか？

1. 肩

まずは、肩と腕の運動です。

両肩を耳につける気持ちでキューと引き上げて、ストンと落とします。

- 1 肩を上、落とす、上、落とす(1・2・3・4)
- 2 繰り返しましょう、3、4
- 3 角打ちは気取って行くところではありません(1・2・3・4)
- 4 1、2、3、4

肩を回転しましょう。まずは前から後ろへ、肩を意識して4回回します。

- 1 前から後ろに、3、4
- 2 もう1度回して、気楽に楽しみましょう(1・2・3・4)

今度は後ろから前です。腕も大きく回しましょう。

- 3 後ろから前に、腕も大きく、3、4
- 4 もう一度大きく回して、肩の力を抜きましょう(1・2・3・4)

2. 足腰

次に足の運動です。

その場で、ひざを高く上げ足ふみをしましょう。

- 1 角打ちは立ちっぱなしです、3、4
- 2 足腰が肝臓の次に大切です、3、4
- 3 肝臓は休めば治ります、3、4
- 4 足腰は休んでは治りません。鍛えましょう（1・2・3・4）

角打ちが近づいてきました。

3. 足と足首 足先をひざが伸び切るように軽く8回振り出します。

それでは右足から。

- 1 1、2、3、4
- 2 足は自然において、顔は角打ちを楽しむように自然な高さを保ちましょう
- 3 最後は前に振り出したまま、足首のストレッチをします
- 4 1、2、足を振り出したまま足首を回転させます。

つま先でできるだけ大きな円を描くように回します。

左右にそれぞれ4回転しましょう。

- 1 1、2、3、4
- 2 ウイスキーを混ぜているように。

次は左足の踏み出し。

- 1 1、2、3、4
- 2 はやる気持ちを抑えましょう（1・2・3・4）
- 3 繰り返し、3、4
- 4 アキレス腱を切ったら入院して酒も飲めません（1・2・3・4）

左の足首を左右に4回転です。

- 1 1、2、3、4
- 2 捻挫をしては大変です、3、4

店に入りました、どこに行こうか考えましょう。

両足で爪先立ちを4回しましょう。

- 1 ゆっくり伸ばして、戻す（1・2・3・4）
- 2 ゆっくり、3、4

手の指を組んで裏返し、頭上に上げて体をゆっくり引き上げて背伸びです。

気持ちのいいところまで伸びたらそのまま8数えてゆっくり戻します。

- 1 ゆっくり伸ばして（1・2・3・4）
- 2 戻しましょう、いよいよ角打ちです（1・2・3・4）

4. 腕と手首

続いて腕と手首の運動です。

右腕を前に突き出して、左腕を使って右肘を胸に引きましょう。

気持ちのいいところまで引いたらそのまま4数えて戻します。

- 1 コップ酒を落とさないように、3、4

右腕を頭上に上げて、右肘を左手で下に押さえて、そのまま4数えて戻します。

- 2 大瓶を落とさないように、3、4

今度は左腕です。

- 1 一升瓶を落とさないように、3、4

左腕を頭上に上げて右手で押さえましょう。

- 2 アル中も、手を震わせて、3、4

5. 首

次に首の運動です。

コミュニケーションの基本は「うなずき」です。

1 上下に振りましょう (1・2・3・4)

2 繰り返しましょう。そのうち大将と心が通じてなじみになってきます (1・2・3・4)

右のお客さんが話しかけてきました。

首を右に曲げて、上下に小さく振りましょう。

1 1、2、3、4

2 気持ちよく、3、4

(素早く) おっと今度は左の人が話しかけてきました。

首を大きく左に回して、上下に振りましょう。

1 1、2、3、4

2 上下に小さく、聞いてますよ、3、4

右のお客さんが話し出しました。

首を大きく右に回して、上下に振りましょう。

1 1、2、3、4

2 ゆっくり、上下に、急ぐと酔いが回ります (1・2・3・4)

左の酔っ払った人がしゃべりかけてきました。

首を大きく左に回して、大きく上下に振りましょう。

1 人の話は聞いていません、3、4

2 聞いている振りだけで良いのです (1・2・3・4)

6. 顔

首を振りすぎて、酔いが回ってきた人も大丈夫です。

うなずかなくても笑顔で対応しましょう。

続いて顔の運動です。

口の両側の口角を上げましょう。

1 上に引いて、戻して (1・2・3・4)

2 笑顔は、皆を気持ちよ〜くします (1・2・3・4)

3 常連さんも、3、4

4 新入りも、3、4

7. 腰

店が混雑してきました。

ダークダックスになる必要がでてきました。

そこで腰の運動です。

両手を腰に当てて、左右に振りましょう。

1 左、右、左、右 (1・2・3・4)

2 メタボも、左、右、3、4

後ろの人が醤油をほしがっています。

1 右手に醤油を差し出して、右、右、3、4

2 左手に皿を差し出して、左、左、3、4

次はつまみです。

1 右手にするめを持って、右、右、3、4

2 左手にピーナツを持って、左、左、3、4

8. 足

立ちっぱなしで、だんだん疲れてきました。

リフレッシュしましょう。

足を腰幅にして、体をまっすぐに保って、ひざと足首を曲げます。

- 1 ゆっくり曲げて、伸ばして（1・2・3・4）
- 2 ふともも、ふくらはぎ、すね、アキレス腱を伸ばしましょう（1・2・3・4）
- 3 1、2、3、4
- 4 ゆっくり、3、4

9. 首

いよいよ「おあいそ」です。

腰幅で背筋を伸ばして立ちましょう。

首を左右前後に曲げましょう。

- 1 左、右、前、後ろ（1・2・3・4）
- 2 繰り返しましょう（1・2・3・4）

首回しをします。

ゆっくりした動きで大きく右から2回回します。

- 1 大きく右に、ゆっくり（1・2・3・4）
- 2 首が回らない人も無理やり回しましょう（1・2・3・4）

今度は左に2回回します。

- 1 大きく左に、ゆっくり（1・2・3・4）
- 2 お金は天下のまわり物です（1・2・3・4）

10. 深呼吸

最後に深呼吸です。

息を鼻から吸って、口から出します。

- 1 1、2、3、4
- 2 大将が「お疲れ様です」、3、4
- 3 あれだけ飲んで、安い、3、4

懐から財布を取り出し、大きく両手を前に突き出して、繰り返しましょう。

- 4 1、2、3、4
- 5 繰り返します（1・2・3・4）

それでは明日も一日ガンガン仕事をして、帰りにスカット角打ちに行きましょう。
さようなら～！

ことここに至るまで

響 金太郎

すべての始まりは、僕がまだ木曜日のMCになったばかりのインターネット放送・サッタモまちかど放送局（<http://www.sattamo.jp>）の火曜日に「吉本光一先生を迎えてアフガニスタンについてお話を伺う」という企画が持ち上がったとき、ぜひ自分も参加させて欲しいと願い出たことだった。

何の準備もせず放送に臨むのは失礼と思い、ネットでアフガニスタンの歴史について調べているうちに、何の気なしに先生の名前で検索をかけた。そこで目にしたのは「鍋島の

歌、作詞：吉本光一」の文字。ゲストに関わる曲ならかけるのがラジオのお約束だが、火曜日MCの為（ため）さんによれば、吉本先生は元新聞記者で現在は大学の先生。だから僕は曲も聴かずに、本番で笑い話のネタとして先生に質問したのだ。「先生のお名前をネットで検索したら『鍋島の歌、作詞：吉本光一』って出てくるの知ってましたか？」僕が期待していた答えはもちろん、「いやー、知りませんね。同姓同名ですかね」もしくは「いやー、間違えられて困るんですよ」だった。それでみんなでワッハッハと笑って、それでおしまいのはずだった。

しかし返ってきた答えは、「ええ、わたくしが作詞いたしました」「……………」(放送事故目前)。

その日の夜、放送に同席されていたYプロデューサーから音源データをもらい聴いてみると、その素晴らしさにまさしく「惚れて」しまった。

歌謡曲としてこの上なく成立している歌詞とメロディー、郷愁を感じさせるギターソロ、暖かみにあふれた男女のツインボーカル。たかがCMソングではない。ささやかに懸命に生きる人たちへの大いなる讃歌だった。そして僕は決めた。『この曲を木曜日のエンディングテーマとして毎週かける』。

その後、今度は木曜日の放送に鍋島の歌の作者とプロデューサーとしてお二人にお越しいただき、歌で想像するしかなかった銘酒鍋島をプレゼントされた。歌も酒も頑張る人を励ますためにあるんだと知った。

現在、僕は火曜日に移り、「鍋島の歌」は「恒例ダイエット響」という僕がお手軽ダイエットにチャレンジするコーナーのテーマになっている。ダイエットなのにお酒の歌ってなんかおかしいけれど、大切な僕のテーマソングだ。

あとは魅惑のはらぐち酒店で角打ち体験ができたらいいなと思っていたら、12月17～19日に北九州芸術劇場で行われる「ロングクリスマスディナー」という舞台の出演が決まり、公演1週間前から毎日福岡から小倉に通うことになった。さっそくYPからお誘いもいただき、今からとても楽しみだ。あっ、もちろん北九州の皆さんに喜んでもらえるように舞台は一生懸命やりますよ（汗）。

たくさんの方に足を運んでいただければ幸いです。

あー、いまから待ち遠しいなあ（どっちは聞かないでね、笑）。

中国の地酒を尋ねて

吉本 光一

ケ（芸＝普段の生活）のエネルギーが枯渇した「ケ枯れ」のときにハレ（晴れ）の祭り事を行うことで、「ケ枯れ」からの回復をはかるとは、古代の祖先たちの何と素晴らしい知恵だろう。私ひとりのケ枯れのときに、ひっそりと祭り事を行うのにうってつけの場に「角打ち」がある。

その場で何度か顔を合わすと、杯を交わすわけでもなくても話は弾む。銘酒試飲会、花火大会にかこつけて夕涼みがてらのビヤ・パーティ、戸畑の祇園山笠の祭り、夜宮公園の花

菖蒲、高塔山の紫陽花と、酒飲みのイベントにはこと欠かない。入院すればお見舞いに。人の輪と和が広がり、祭り事が盛り上がる。その手配師を一手に引き受けているのが、「気配りのYさん」だ。

Yさんに、中国・江南地方の旅に誘われた。「いびきはかく、風呂とトイレは長い。旅の途中で相部屋に嫌気さされては」と気になったが、「紹興酒のふるさとで、すばらしい地酒や居酒屋にめぐり会えるかも、ですよ」。殺し文句にはまって、1週間、相部屋の旅が始まった。娘の誕生祝いに大きなつぼに老酒を仕込んで土中に埋め、婚礼の日に掘り起こして一同に振る舞う、と聞いたことがある。果して、そんな酒に出会うことができるだろうか。

初日の蘇州。夕飯をサッと切り上げて、地酒探訪の町に出た。柳が揺れる運河の橋は、人も車も少なく、欄干の薄明かりが夜霧に霞んで寂しい。油断していると、電動バイクが後ろから音を立てずにそでをかすめて通りすぎてゆく。危ない、危ない。

床屋、洋品屋、バイクの店、雀荘などが8時を過ぎても開いているが、居酒屋は見当たらない。と、Yさんが「ほら、あそこ」と指差した先に、酒つぼを沢山並べた小さな店が半間の扉を開いていた。近寄ってのぞくと、ある、ある、横浜の中華街の店先で見ると同じ大きな酒つぼが四、五十個、たたきに並んでいる。五十がらみの店主が一人だけ、客の影はない。「500ml □□元」と値札がつぼに乗っている。事情通のYさんも「計り売りの酒屋は初めて」とか。

「まずは小手調べ」と、持ち歩いていたペットボトルの水を空けて、24元の黄酒（老酒）を指すと、丸い缶の形の升で計ってくれた。ホテルに駆け戻って味見をすると、味がやや薄くて高級酒とは言えないが、砂糖の添加がなくて、いやみのない味・香だ。「うん、あの値段で、悪くないね」「スーパーのびん詰めにはない味ですね」。まずは二人とも満足した。

翌日同じ時間に、空のペットボトルを集めて出掛けると、店主が今度は愛想よく迎えてくれた。白酒（バイチュウ）は6元から90元までである。そこへ、常連風の若い男が5リットルほどのポリタンクを下げきて、12元の白酒を注文した。つぼの大半は白酒だった。そうか、みんな居酒屋でなく、家でこの酒を飲むのか。そう合点すると、その酒を飲んでみたい。12元と90元を1本ずつ注文した。

12元の酒は、麴菌の香のような臭みがあるが、自然な懐かしさを抱えた普段着の酒。90元のほうは茅台酒に近い、上品に仕上げた香と味の宴席の酒。どちらも免税店やスーパーでは手に入らない、手作りの味覚が膨らむ楽しい酒で、旅の終わりまで、中国の地酒を心から堪能した。それにつけても、これほどのうま酒、美酒に恵まれていながら、ケ枯れの時にハレの祭り事をする場がないとは、なんと寂しいことだろう。祭り事の場に恵まれた幸せをかみしめた。

よい場がよい友、よい出会いを連れてくる。その連鎖のなかで「鍋島」の酒と出会って「鍋島の歌」が誕生し、新しい音楽グループとの出会いがその歌をリフレッシュし、「鍋島」の酒は今年のInternational Wine ChallengeでChampion Sakeの最高荣誉に輝いた。

これまで、「自分一人が頼り」の人生をわき目も振らずに突っ走ってきた自分が、自分一人の力では生きてゆけないと実感する年齢になったときに、ハレの祭り事の間から生ま

れた「鍋島の歌」は、私自身にも、行く手を照らしだす明かりとなった。

編集後記

安行さんと2人で鹿児島県・鰻温泉の超熱い湯につかり、戻った翌日、東日本大震災と福島第一原発のカラ焚き・炉心溶融の重大事故が起きました。半年過ぎても、土壤の放射能汚染や汚染水の処理は捗っていません。このような重大事故が1年間に1万基の原発に1件の割で起こりうる現実的なリスクであり、それに備えないかぎり、原発の安全性は保証されないと、中央公論に論文を掲載したのは、新聞社で原子力記者をしていた39年前でした。あのとき、自分が命をかけてもっと頑張っていたら、この未曾有の人災を食い止めることができたかもしれないと、自責の念が迫ってきます。と同時に、この警告を一笑に付して「原子力安全神話」を信奉した過ちを再度繰り返しかねない世の流れに、強い憤りを覚えます。原発のエネルギーを上手に使いこなせば、資源小国を支える大きな力になる可能性を認めればこそ、危険性を直視してそれに備えることが大事だとの思いから、この間の事情を文芸春秋12月号に書きました。読後感、意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

(碰々仙)

今回は、新しく4名の方の投稿があり、これで投稿者数が17名となった。今後が非常に楽しみになった。酒呑みの考え、教訓、失敗談、心意気等を皆さんに感じて貰える「はら関」になって欲しい。初号の「発刊にあたり」で記したようにコップとペンの両立がますます盛んになるように手伝いできればと思っています。

「まあ、ゆっくり世間話をしていきませんか。お茶でなくお酒を呑みながら」。

次回は新春号、投稿をお待ちします。題材、文の長短を問いません。「酒」に縁のある内容であれば言うことなしです。

投稿は、はらぐち酒店に預けていただくか、kei2@bronze.ocn.ne.jpへ宜しくお願います。

「はらぐち閑話」は、はらぐち酒店HP(<http://homepage1.nifty.com/haraguchi/sake/>)もしくは、戸畑はらぐち酒店で検索してくださいの「かくうちの部屋」でご覧いただけます。

次回発行は1月11日(12月19日締切り)とします。

(今朝の鮭)

はらぐち酒店: 北九州市戸畑区中本町4番9号

電話093-871-2150

sake-tobata@nifty.com